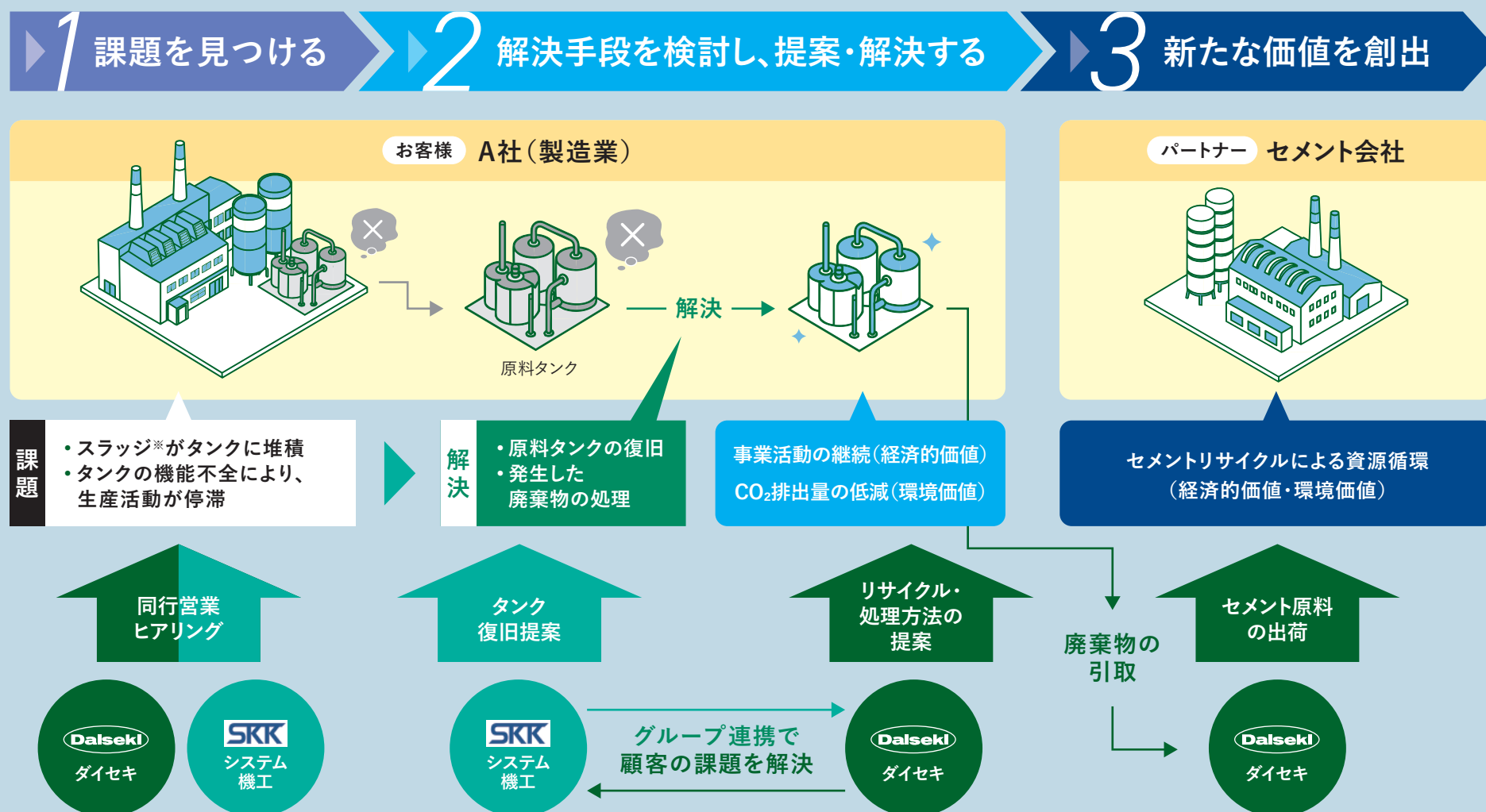


特集

課題解決型企業への進化を見据え、ダイセキはグループ各社の強みを掛け合わせることで、お客様への提供価値を広げています。本特集では、システム機工との連携により、長年解決できなかった顧客課題を解決し、新たな価値創出につなげた事例をご紹介します。

ダイセキ×システム機工



※スラッジ:工場排水の処理や各種製造工程で発生する泥状の廃棄物

お客様の声

長年の課題が解決され、
工場の安定操業が確保されました

我々は数年間にわたり、薬液タンクに堆積するスラッジの除去に悩まされ続けてきました。スラッジが堆積する度に清掃業者などにスラッジの除去をお願いしていましたが、除去が追い付かずスラッジの堆積が進んでしまい、いつ製造工程が停止する事態に陥るかと不安な日々を過ごしていました。ダイセキとシステム機工の担当者から「タンク上部に高圧噴射ノズルを設置し、水圧でスラッジを破碎して回収する」提案がありました。最初はあまり

に壮大過ぎてイメージが湧きませんでしたが、緻密な工事計画のもと、工程通りにタンクに堆積したスラッジを除去していただきました。現在はスラッジの堆積を防止する対策を講じることができたので、安定的な操業を確保することができており、とても感謝しています。このようなトラブルが発生しないことが一番ですが、今後も難題が発生した際はぜひ相談させていただきたいと考えています。

担当者の声

タンクから回収した廃棄物が膨大な量でしたが、生産部門と技術部門による処理方法の確立とセメント会社への出荷調整、業務部門による協力会社を含めた回収車両の配車調整を行い、各部門が連携することで円滑な引取ができました。



ダイセキ
九州事業所 営業部
営業担当

タンク内部に設置した噴射機のノズルをこまめに微調整することで、効果的にスラッジに噴射することができました。洗浄工事が終了し、お客様が喜んでくださる姿を見たときは、大きな達成感を感じることができました。



システム機工
事業本部 工事グループ
工事担当

顧客課題の解決から次のニーズへ
グループ連携で収益を拡大

1 課題を見つける

ダイセキとシステム機工は共同で製造業の顧客A社を訪問し、タンク内に堆積したスラッジによる機能不全で生産活動が停滞しているという課題を把握しました。両社は、システム機工のタンク洗浄技術とダイセキの廃棄物処理技術を組み合わせることで、顧客の課題を解決できると考え、共同でソリューションを提案しました。

2 解決手段を検討し、提案・解決する

システム機工が薬品タンク内のスラッジを回収し、ダイセキが回収したスラッジをリサイクル処理するという役割分担のもと、両社は綿密なシミュレーションを重ねました。その結果、システム機工がCOW工法(右ページ囲み参照)を応用してタンク内に固着したスラッジを水噴射機で破碎・回収し、ダイセキが回収した廃棄物をリサイクル処理するソリューションを提案。約1年半にわたる洗浄工事を経て、計画どおりに薬品タンクを復旧し、A社が長年抱えていた課題の解決につながりました。

3 新たな価値を創出

A社ではタンクの3分の2がスラッジの堆積により使用できない状態でしたが、本洗浄工事により全てのスラッジを除去し、タンク全体を生産活動に活用できるようになりました。回収した廃棄物は約3,700tに及び、従来であれば焼却処理せざるを得ないものでしたが、ダイセキの処理技術により、その一部をセメント原料として再資源化することが可能となりました。

ダイセキとシステム機工がそれぞれの専門性を活かして顧客課題に向き合うことで、「廃棄物処理」とどまらず、「モノづくりを支える」という新たな価値も実現しました。工場設備のメンテナンスは製造業に不可欠であり、同様のニーズは今後も拡大すると見込まれます。ダイセキグループは、各社の専門性を活かしたグループ連携により、顧客企業の課題解決に貢献していきます。

システム機工独自の先進技術で
安全・短工期・再利用を実現

COW工法はタンク内への入槽作業を不要とし、エア駆動マシンで大型タンクを安全かつ短工期で洗浄する技術です。設備停止期間の短縮と作業安全性の向上に加え、回収したスラッジを資源として再利用することで環境負荷の低減も実現します。

(タンク内洗浄のイメージ)

